

# 沿岸性重要貝類の資源造成技術開発（メガイアワビ）

（増養殖試験研究事業）

柳 昌之

## 1. 研究の目的

既知のアワビ類の放流技術は主にクロアワビを対象として開発されたものであることから、メガイアワビにおいて大量放流に対応したより簡便で効果的な放流技術を開発するために、放流直後の減耗要因の検討を行う。

## 2. 研究方法

調査は島根県松江市鹿島町倉内湾の水深3～5mに設置した次表に示す4種類のかごを用い、おのおのに6区の試験区を設定した。

試験かごは、転石の形状や重なり具合による影響を排除するため、基底の砂質となるまで転石を取り除き設置し、シェルターとして直径10.5cm、長さ45cmのプラスチック製の雨どいを3本連結したものを使用した。

全区に30個の30mmサイズのメガイアワビを收容し、A区は1日、B区は3日、C区は6日、D区は8日、E区は14日、F区は30日後に潜水により全数取り上げた。

番号	試験区						
	覆い網の形状	A	B	C	D	E	F
1	上面網・底面網なし	○	○	○	○	○	○
2	上面網あり・底面網なし	○	○	○	○	○	○
3	上面網なし・底面網あり	○	○	○	○	○	○
4	上面網・底面網あり	○	○	○	○	○	○

備考：70（L）×70（B）×30（D）cm 丸鋼φ10mm

覆網目合20節（一部10mmの無結節網）

全試験区に側面網を設けた。

## 3. 研究結果

試験区別の生貝発見率

	A	B	C	D	E	F
1	36.7%	33.3%	36.7%	6.7%	3.3%	0.0%
2	26.7%	46.7%	66.7%	53.3%	0.0%	0.0%
3	56.7%	60.0%	60.0%	76.7%	30.0%	10.0%
4	86.7%	96.7%	96.7%	76.7%	56.7%	73.3%

上面網はベラ類等遊泳性の生物による食害の防止、底面網はヒトデ類等匍匐性の生物による食害防止を目的として施した。

底面なしの1・2の試験区においても、底面ありの3・4の試験区においても遊泳性生物の食害防止策である上面網を施した試験区の生貝発見率が高く、上面網の有効性が立証されたが、いずれの試験かごもD区からE区において発見率が大きく減少している。

上面、底面、側面に網を施した4の試験区においてもこの傾向は変わらず、食害ではなく、十分な摂餌ができなかったことによるものと思われる。

この成果を基に、簡易な放流器の開発を行う予定であったが、課題の打ち切りを余儀なくされたため、開発は頓挫している。なお、開発予定であった放流器の考え方は次のとおりである。

- (1) 潜水作業を要しない、船外機船からの投入方式とし省力化を図る。
- (2) 小型の放流器とし、漁場条件に応じた放流密度となるよう、多数の使用を可能とする。
- (3) 放流直後の保護を目的とし、1週間以内に逸散させる構造とする。